

# 令和7年度陸修偕行社 慰靈祭ご遺族代表挨拶

中川 聖



中川 聖様  
は、終戦の年、  
第1総軍司令部で自決され  
た吉本貞一元  
陸軍大将のご  
親族です。 (編集委員会)

今から80年前の昭和20年9月14日に市ヶ谷台上において自決した陸軍大将吉本貞一の遺族を代表して、先の戦争の原因とその特筆すべき点を振り返りながら挨拶をさせていただきたいたいと思います。

日本は、今から84年前の昭和16年12月8日に、米英に対して宣戦布告を行いました。その直接の原因是、連合国軍最高司令官のマッカーサー元帥が回想録で述べているように、アメリカが日本に行つた経済制裁にあつたと思います。

では、アメリカは、なぜ日本に対する経済制裁を行つたのでしょうか。

中川 聖様  
は、終戦の年、  
第1総軍司令部で自決され  
た吉本貞一元  
陸軍大将のご  
親族です。 (編集委員会)

には介入しないことを謳つた「モンロー主義」という原則があつたことから、ルーズベルト大統領は、この原則を破るためにドイツやイタリアと軍事同盟を結んでいた日本に目をつけ、日本に軍事的、経済的な圧力をかけ、日本から先に攻撃を仕掛けさせることで交戦状態を作り、それを理由にドイツやイタリアと戦争を行う計画を立てました。

こうして日本は、死中に活を求めて、世界最強の国家に戦いを挑むことになるわけですが、この戦争は、生存確保のために行つたやむを得ざる自衛行為であるとともに、数世紀に及ぶ西欧列強の植民地支配からアジアを解放して、大東亜共栄圏を実現するというアジア民族の生存を賭けた戦いでもあつたわけです。

ところで、この戦争の中で特筆すべき点は、陸軍中野学校出身の特務機関員たちが東南アジア各地で結成した独立義勇軍と陸海軍協同の特攻作戦だったと思います。独立義勇軍は、終戦後、東南アジアに再び植民地化を目指して侵攻してきたイギリス、フランス、オランダの軍隊を残參戦するようになつたが、当時のアメリカにはヨーロッパの問題には介入しないことを謳つた「モンロー主義」という原則があつたことから、ルーズベルト大統領は、この原則を破るためにドイツやイタリアと軍事同盟を結んでいた日本に目をつけ、日本に軍事的、経済的な圧力をかけ、日本から先に攻撃を仕掛けさせることで交戦状態を作り、それを理由にドイツやイタリアと戦争を行う計画を立てました。

ところが、戦後の日本の歴史教科書では、この戦争がアジア諸国を侵略した西欧列強に対する「解放戦争」ではなく、いつのまにかアジア諸国に対する「侵略戦争」になつてしまつたわけです。どこの国の歴史教科書に対しても、自國の戦争を弁護して書くものですが、戦後の日本の歴史教科書だけは、自國の誇りを奪うような書き方をしていると思います。このようないえども日本だけだと思いますが、この背景には、戦後、連合国軍最高司令官総司令部(GHQ)が実施した「ウォーリ・ギルト・インフオ

メーション・プログラム(WGIP)

の名で知られる日本人に対する「戦争犯罪情報宣伝計画」があつたこと

を忘れてはならないと思います。

GHQは、日本が再びアメリカに立ち向かつてくることがないように、

日本人の左翼的な教育者や大手マス

コムを利用して、日本がアジア侵略

を行つたというコンプレックスを子

供たちに持たせ、日本人から大東亜

戦争に対する自信と誇りを奪つてしま

うという計画を立てたのでした。

実は、GHQが昭和21年5月から

実施した東京裁判も、この計画の一環として行われたものだつたのです。

以来、日本は、80年もの間、主権の

ない国家になつてしまつたわけですが、

アメリカのスタンフォード大学

で日本近代史と日本帝国史を研究し

たピーター・ドウスという教授は、

その著書『帝国という幻想』(青木書

店、1998年)の中で、日本人が行つた大東亜戦争は、「白人から奴隸にされる脅威を排除して『白人の優越』を覆した。そのスケールは、平民を解放したフランス革命よりも、遙かに壮大な人類史上の大革命だった」と述べて、大東亜戦争の世界的意義を高く評価しています。

一方、戦後、フランスの文化大臣レ・マルローという作家は、「日本は太平洋戦争で敗れはしたが、そのかわり何ものにもかえ難いものを得た。それは、世界のどんな国も真似のできない特別攻撃隊である。私は、祖国と家族を想つ一念から恐怖も生への執着もすべて乗り越えて、いさぎよく敵艦に体当たりした特別攻撃隊の精神と行為の中に、男の崇高な美学を見るのである」と述べて、特攻隊員の崇高な自己犠牲の精神を讃えてくれています。

このように、日本人が世界から尊敬されているのは日本人がお金をたくさん持つているからでもないし、高度な技術力を持つているからでもないと思います。それに勝ると劣らないものとして、サムライの精神力を持つた日本人を認めているからだと思います。日本民族は、有史以来の大戦争で実際に300万人以上の人命を失つて、文字通り死力を尽くして戦いました。にもかかわらず、靖國神社の英靈を「大死」だと「アジア侵略の手先」だとか言つていいはずがありません。

この80年間に「大東亜戦争」の真実や「東京裁判」を実施した「戦争犯罪情報宣伝計画」の正体が次第に明らかになってきました。日本人は、

15世紀中頃から続く西欧列強による侵略の世界史」を大きく転換させた大東亜戦争とアメリカ軍が心から恐れた陸海軍の特攻隊に対してもっと大きな自信と誇りを持たなければならぬと思います。そして、そのことをこれから生まれてくる子孫に伝えていかなければならないと思ひます。それが日本再生の一番の近道になるからです。

少し長くなりましたが、以上をもちまして、私の挨拶にかえさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

## 広告目次

(株)セレモ	表紙	4
(株)東京都民互助会	表紙	4
(株)武藏富装	表紙	4
(株)和泉家石材店	表紙	4
(株)全国儀式サービス	表紙	4

本誌へ広告掲載をご希望の方は、事務局へご用命下さい。

60 45 39 17

安心・安全・真心

いのち  
兵士の生命を護り  
災害に備える  
信和株式会社

代表取締役 田中宏明 (賛助会員)

TEL 03-6228-1326  
FAX 03-6228-1329

防護用品

スリーピングバッグ、簡易ベッド  
レスキューベスト、搬送マット